

# 大／阪／の／建／築／まちあるき——「堺」

## 堺市立みはら歴史博物館（M・Cみはら）



M・Cみはら外観



展示室1：河内鑄物師を紹介



金剛輪寺梵鐘（複製）



展示室2：黒姫山古墳から出土した甲冑などを展示

**所在地：** 堺市美原区黒山 281 番地  
**最寄駅：** 近鉄河内松原駅から近鉄バス余部行き・大保下車徒歩すぐ  
 南海北野田駅から南海バスまたは近鉄バス・多治井方面行き黒姫山古墳前下車徒歩すぐ  
**TEL:** 072-362-2736  
**開館時間：** 午前9時から午後5時15分まで  
**休館日等：** 月曜日、年末年始(12月29日から1月5日)  
**参考出展：** 堺市ホームページ、M・CみはらHP

美原区(みはらく)は、2006年4月1日に、堺市が政令指定都市に移行し、旧南河内郡美原町(2005年2月1日編入合併)の区域を以って美原区となり2年が経過した。地名の由来は平尾村、黒山村、丹南村の「三つ」の村に美しい平坦な野(原)が広がっていたことから「三原」を「美原」と呼ばれるようになった。美原区域は、飛鳥時代の難波宮と飛鳥京を結ぶ日本最古の官道「飛鳥道」(後の竹内街道)に北端を接し、日本書紀に黒山の地名が見られるように、大和朝廷の時代から、和泉(堺)と大和を結ぶ交通の要衝として、繁栄してきた。

中世・鎌倉時代には、河内鑄物師(かわちいもじ)と呼ばれる鑄造技術者集団が、東大寺再興や鎌倉大仏の鑄造などで活躍し、今なお全国の鑄物師発祥の地として伝えられている。

河内鑄物師はその高い技術を評価され、堺に移り住み時代を動かした鉄砲を製造するようになったとされている。

堺市立みはら歴史博物館(M・Cみはら)は、全国の鑄物師発祥の地として『カタチ造りの達人』をグランドコンセプトとする複合施設である。愛称のM・Cみはらは、Museum(博物館)と、Community(交流)をイメージし名づけられた。「黒姫山古墳」(前方後円墳)を想像させる外観の施設では、中世において、みはらの地を本拠地・居住地とした鑄造技術者集団「河内鑄物師」と24領の鉄製甲冑が出土した「黒姫山古墳」を、メインテーマとした常設展示室、および企画展・特別展が開催できる特別展示室、日本における鑄物技術の歴史について学ぶことができる。

(桑原宏明)